

複数の領域をめぐる趣味活動

——鉄道ファンのライフストーリーからの検討——

東京大学大学院 塩谷昌之

1 目的

本報告の目的は、現代の鉄道趣味という現象に即して、ブルデューの卓越化の理論および「場」champ の概念がどの程度まで応用可能かを検討することである。これまで趣味を対象とした研究では、余暇・レジャー研究、「遊び」研究、大衆文化研究、メディア論などの分野において知見が蓄積されてきたが、社会学においてとりわけ注目すべきはブルデュー理論を応用したファン研究であるとする。この研究分野では、趣味集団の内部にいる人々の行動論理を説明するため、再生産の文脈を切り離れた上で、ブルデューの分析枠組みを応用してきた。すなわち、それぞれの趣味領域において、「場」champ という一定の社会的圏域が存立する条件を明らかにし、その内部で展開される人々の行動について、卓越化という競争的な指標から説明を行ってきた。しかし、この分析枠組みでは、とりわけ「場」champ の概念をミクロに導入することによって、趣味集団をひとつの同質性の高い集団として固定的に捉えてしまう可能性がある。本研究が取り扱う鉄道趣味は多様な行動様式をもつ趣味であり、そこでは他の趣味をはじめ、近接する様々な領域から影響を受ける可能性にも開かれている。以上の問題関心より、本報告では、多様な行動様式を内包して展開する鉄道趣味という現象に即して、趣味研究におけるブルデューの分析枠組みの応用可能性を検討する。

2 方法

主として2011年8月から2012年10月にかけて行った、鉄道趣味に関連するフィールドワークによって得られたデータを用いて分析を行うが、とりわけ鉄道ファンを対象として得られたライフストーリーを焦点化し、趣味集団の内部から外部へと向けた視線を記述する。加えて、鉄道趣味のあり方を具体的に記述した書籍・雑誌、および数量的データを参照するなど、必要に応じて補助的にデータを提示する。

3 結果

フィールドデータおよび資料の分析の中では、鉄道趣味における競争的な側面を多様な形で確認できる。具体的には6つの行動様式の中に17種類の競争的な側面を想定することができる。しかしライフストーリーの分析の中では、鉄道ファンが必ずしも趣味集団内部での卓越化のみを指向していない様子、趣味領域の外部で展開されている価値観にも接近している様子もまた確認することができる。これにより、卓越化が鉄道趣味を説明するひとつの指標となりうる一方で、「場」champ の概念をそのまま導入するのみでは、趣味集団の外部に展開する領域との関わりを見落とす可能性があるという指摘する。

4 結論

以上から、一見すると趣味集団の外部にある領域においても趣味活動が行われる様子を確認し、鉄道趣味のような裾野の広い趣味領域を取り扱う際には、同質性の高いひとつの領域のみを対象を固定せず、趣味を構成する複数の領域にも視点を向けた、異質性を持つ人々の存在を許容する分析枠組みが必要になると考えられる。

文献

Bourdieu, Pierre, 1979, *La Distinction: Critique Sociale du Jugement*, Paris: Les Editions de Minuit. (=石井洋二郎訳, 1990, 『ディスタクシオン I・II』藤原書店.)